

称名寺聖教 『法事讚下管見鈔』について

— 解題と翻刻 —

佐竹真城

はじめに

小論は、神奈川県称名寺所蔵にして、神奈川県立金沢文庫で管理される国宝称名寺聖教のうち、『法事讚下管見鈔』二巻（92函9—1・2）の翻刻を紹介するものである。

『法事讚下管見鈔』解題

『法事讚下管見鈔』は、題号が示す如く善導（六一三—六八一）撰『法事讚』の下巻を註釈したものである。撰者は、内題に続いて「沙門導空述」（巻上／巻下・一丁右）とあることから、「導空」なる人物であることが窺える。題号に注目すると、称名寺聖教には本書の他に「管見鈔」の題号を有する書が以下の如く複数確認できる。

- ①『観経玄義分管見鈔』 巻一（湛睿手沢 92函1）
- ②『観経序分義管見鈔』（92函2）

- ③『般舟讚管見鈔』卷上（崇順手沢 92函3）
- ④『觀經散善義管見鈔』卷一（崇順手沢 92函4―1）
- ⑤『觀經散善義管見鈔』卷二（崇順手沢 92函4―2）
- ⑥『觀經散善義管見鈔』卷三（崇順手沢 92函4―3）
- ⑦『觀經序分義管見鈔』卷一（崇順手沢 92函5―1）
- ⑧『觀經散善義管見鈔』卷二（崇順手沢 92函5―2）
- ⑨『般舟讚管見鈔』卷上（92函6―1）
- ⑩『般舟讚管見鈔』卷下（92函6―2）
- ⑪『觀念法門管見鈔』卷上（92函7―1）
- ⑫『觀念法門管見鈔』卷下（92函7―2）

これらのほとんどは撰号を欠いているものの、⑩には「沙門道空述」（二丁右）、⑪には「沙門導空述」（二丁右）との撰号が確認できる。⑩⑪の二書の撰者は、「道」「導」の相異はあるが、両字は相互通用されることも珍しくなく、何れも善導撰述書の註釈であり、何より「管見鈔」という題号の一致も相まって、同一人物の撰述と考えて大過ないだろう。翻って、本書の撰者「導空」も、これらの著者と同一人物と考えられる。この「導空（道空）」が如何なる人師かという点、塚本善隆博士は、諸史料から可能性を三名に絞って検討し、覚明房長西（一一八四―一二六六 以下、長西）を派祖とする浄土宗九品寺流（諸行本願義）の系譜に列ねる導空であると推定しており、筆者も同意するところである。

九品寺流の導空とは、すなわち『法水分流記』（一三七八年成立）に、

九品寺義 又号諸行本願義

長西

住^ス九品寺^ニ。生所讚州西三谷^ノ。九歳上洛、十九出家。上人往生時二十九歳、其後西山門人也。義絶。

阿弥陀^②……

空寂

道教 念空 弘安十亥 七八亡

性仙

(『東洋学研究』三〇・七〇頁―七三頁略抄^③ 傍線・太字は筆者)

とある、性仙のことである。『吉水法流記』(一三七五年成立)には「性仙」を、

性仙法師 謹道空

(『東洋学研究』三〇・一〇〇頁 傍線・太字は筆者)

と伝えており、諱が導空(道空)であることがわかる。性仙は、鎌倉浄光明寺「地藏菩薩石像銘」に、

(背、陰刻) 供養導師性仙長^④

正和二年十一月^⑤ 施主^⑥ 覺^⑦ 大工^⑧

(『鎌倉遺文』三三一・三七〇頁 傍線は筆者)

とあり、浄光明寺の長老を務めたことも窺えるから、当時の東国において有力な人師であったと見てよいだろう。

本書は上下二巻から成るが欠失も多く、残存するのは上巻が六二丁、下巻が一丁のみである⁴。如上、下巻はほとんどを欠くが、具体的に註釈箇所を『法事讚』に対応させると、題号釈から転経分第一〇段（『阿弥陀経』東方段引文）の一部までということになる。その著述方法は、はじめに『法事讚』本文の所釈箇所を「從●●至于●●」と示し、続けて「述曰」（一箇所「述云」）と所釈文に対する註釈を施す形式を取っており、全部で三一の文段が確認できる。

本書の内容は、「十八^ト十九^ト二十^ト、共為^{ニス}本願^ト。何立^ソ虚願^ヲ成^ル仏乎^ト」（巻上・一〇丁左）等の文言が見られるように、いわゆる「諸行本願義」の立場から解釈が施されているが、そのなかで特筆すべき内容の一例として、『阿弥陀経』の「少善根」釈と『法事讚』の「随縁雑善」釈が挙げられる。別稿にて報告している如く、導空はどちらも「無菩提、心の行」と理解していることが窺え、九品寺流諸師と比較してみても特異な解釈といえる⁵。したがって、導空の教学、ひいては九品寺流および中世浄土教の実情を明らかにする上でも、本書は示唆に富んだ一書といえよう。

さて、導空における善導『観経疏』註釈（前掲①②④⑤⑥⑦⑧）では、殊に元照（一〇四八―一一一六）をはじめとした宋代浄土教典籍受容の目立つことが指摘されている⁶。本書の引用典籍を見ても、『法事讚』所引の『阿弥陀経』を註釈する上で、元照『阿弥陀経義疏』の引用が一七回と突出しており、特に元照の思想に傾倒している様子を看取できる。その他、戒度（生没不詳）や智円（九七六一―一〇二二）など、回数こそ多くないものの宋代典籍を取り入れた著述姿勢は、『観経疏』註釈で指摘される特徴とも一致してくる。また、「述曰」と自らの解釈を述べた箇所が、元照『阿弥陀経義疏』や慈恩『阿弥陀経通贊疏』からの孫引きである例も散見される。この点も含め、導空の著述態度や九品寺流における導空の位置など、別稿にていささか検討する予定である⁸。

なお、本書の法量は、上下巻とも縦寸23.1cm・横寸15.5cm⁹、体裁は上巻が半葉六行、一行二三字内外、下巻が半葉七

行、一行一六字内外である。

おわりに

以上、甚だ簡略ながら『法事讀下管見鈔』が如何なる典籍であるのかを記した。最後に、本書の著者である導空が持つ別の一面を示すことで、本書が持つ価値の高さを提示したい。

導空は、鸞宿（一六八二—一七五〇）が編纂した『浄土伝灯総系譜』（一七二七年成立）に、

性仙

字道望。住、浄光明寺。此人附、順、高舟、摧邪輪、而難、選、撰、集。

（『浄全』一九・一二二頁 傍線・太字は筆者）

とあり、専修念仏教団の一流に名を列ねているにも関わらず、あろうことか難敵明恵（一一七三—一二三二）の『摧邪輪』に依拠しながら、法然（一一三三—一二二二）の『選撰本願念仏集』を批判した人師としても知られている。したがって、一見すれば異端的存在といえるが、このような人師が活躍する素地が当時の東国にあったのもまた事実である。九品寺流は専修念仏教団の一流でありながら、その教学が「背師異義」たる「諸行本願義」と批判され、早い段階でその法流が途絶えている。そして、古来その背師異義の源流は派祖長西に遡って考えられている。それに対して、かつて筆者は、長西の教学においては諸行の扱いこそ聖道諸宗に近接するものの、本願の正意は称名にあるとの主張であったことを指摘したことがある⁽¹⁰⁾。一方で、九品寺流には導空の如く法然批判という露骨な対応をとる者が現れているのも事実である。これはすなわち、今日の我々が、九品寺流という流派を、そして中

世の浄土教の全体を、把握したつもりで把握しきれていないことを意味しているのではないだろうか。

如上、『法事讀下管見鈔』は、撰者である導空の教学を明らかにする上でも、未だ詳らかでない点の多い九品寺流、そして中世浄土教の実情を明らかにしていく上でも、様々な可能性を有しているから、等閑に付されるべきではない書である。それは同時に、今一度、称名寺聖教に伝わる中世浄土教典籍を視座として、中世浄土教を把握し直す作業が必要であることの示唆ともいえるだろう。

引き続き、称名寺聖教に含まれる中世浄土教典籍を翻刻しつつ、それを視座とした研究を行っていくことが課題である。

付記

小論は、公益財団法人三菱財団の第四八回（二〇一九年度）人文科学研究助成による成果の一部である。また、小論の執筆にあたり、金沢文庫御当局には格別の御高配を賜りました。衷心より感謝申し上げます。

『法事讀下管見鈔』翻刻

【凡例】

- ①本翻刻は、称名寺聖教『法事讀下管見鈔』上下二卷（92函9号1・2、下巻は冒頭のみ残存）を翻刻したものである。
- ②漢字は新字の通行体に統一して翻刻した。
- ③各丁数は〈 〉で括って示し、行取りは原本に準じて行頭に行数を示した。
- ④マイクロフィルムにおいて「残簡より発見したるもの」とされる七紙については、本来の位置と考えられる場所に戻し、丁数は〈残簡②右〉のように表記した。
- ⑤スペースは見出しの科段等に適宜私的に付した。
- ⑥訂記は本文に反映して翻刻した。
- ⑦湮滅は字数分の□で表記した。
- ⑧引用文については、管見の範囲で確認し得た出典を（ ）内に割書で示した。
- ⑨写誤や脱字など意味が通らない箇所が散見されるが、校訂はしなかった。
- ⑩特に必要な情報を示す場合、脚註に記した。

巻上

【表紙】

左上「法事讀下管見鈔上」

【本文】

〈二丁右〉

01 法事讀下管見鈔上 沙門導空述

02 題額

03 從安樂至于卷下 述曰安樂行道者安樂是

04 極樂異名故花嚴經

（般若記卷四〇、『大正藏』卷一〇・八四八頁上）

云往生安樂国云法花經

（卷六、『大正藏』卷九・五四頁下）

云即安

05 樂世界云道綽所造兩卷疏名安樂集故知安樂是

06 所求之土行道等即能求行也今依三業次第云行道

〈二丁左〉

01 転経行道是身業転経口業願生即意業也浄土者如

02 前解言法事等者如上卷鈔沙門善導等者応知

03 從高座至于衆俱 述曰高座入文者為浄身器

04 入法水勸請懺悔竟正可読経故此標章 問寿経観

05 経小経説時前後如何答諸師異義不同也僧肇法師阿

06 弥陀経疏云今尋檢四経部部之内雖具明浄土然旨趣

〈殘簡②右〉

01 □願故知先説兩卷云此義方不然先雖説観□□□

02 来説云為説四十八願有何相違乎又閉父王勢力自在

03 雖是太子亦名為王云閉父王是観経名王即寿経弥順

04 興師義何況如大阿彌陀經者世王太子与五百長者子詣

05 仏所作発起衆預記勃然龍興經疏云闍世禁父剋世

06 王有子名憂陀跋耶跋陀於道頭与狗子戯与狗共食

〈殘簡②左〉

01 意当此時説觀經何以前請仏所蒙記別者作此幻少

02 事乎故以龍興所解為勝也応知 問曰三部經翻訳先後

03 如何答曰玄一云今但約盛流布兩卷經觀經阿彌陀經而

04 唯翻訳初訳兩卷宋時仏陀跋多羅訳次觀經宋元

05 嘉年量良耶舍訳此阿彌陀經秦時羅什訳亦名无量

06 寿經与小无量寿經別本彼宋元嘉年求那跋多羅翻

〈殘簡③右〉

01 已靈芝疏〔大正藏卷三七
三五七頁上、下〕云次釈文中此経凡有兩訳姚秦羅什法師

02 訳即今本也二大唐玄奘法師訳今見藏中立題各異

03 如下所明自古解釈凡有三家唐慈恩法師通讚一卷今朝

04 孤山法師雪溪法師皆有疏記見行于世今之所出各

05 從其志時有異同臨文自見次正釈文相又二初釈経題二

06 釈経文初中此経本名称讚不可思議功德一切諸仏所

〈殘簡③左〉

01 護念経総十六字経字為通題上十五字為別題上八

- 02 字属教即經所說依正莊嚴称名往生皆是弥陀修因感
- 03 果威神願力不思議功德也下七字属機即依教起行專
- 04 修成業衆聖冥加撰持不退直至菩提也契師唐訳即
- 05 用本題云称讚淨土仏撰受経語雖少異義意大同対
- 06 文可見今経秦訳隱略本題在六方仏後即下云汝等

〈殘簡④右〉

- 01 衆生当信是等抛宗取別建此題略有五意一則上
- 02 符経旨経中唯示持名方法故取仏名用標題首二
- 03 則下適機宜弥陀名号衆所樂聞故用標題必多信
- 04 受三理自包含但標仏名称讚護念任運自撰故四義
- 05 存便易梵号兼含耳聞淳熟故五語從簡要後世受
- 06 持称道不繁故且如唐訳従本立題而未聞流布又如大

〈殘簡④左〉

- 01 本従華標目而罕見誦持乃知秦本深体聖心故得
- 02 四海同遵百代无古感通伝説羅什法師七仏以來翻経
- 03 信非虚矣今积此題上五字為別局今経故下一字為
- 04 通同衆典故就別題中上二字標能説教主定是积
- 05 迦但举通号下三字示所説人簡非他仏故標別号
- 06 通別互举訳人之巧傾出我口暢悦彼心以教合

〈殘簡⑤右〉

- 01 機故称仏説阿弥陀此翻无量經自釈云彼仏光明
- 02 无量照十方国无所障礙是故号为阿弥陀謂无边量
- 03 也又云彼仏寿命及其人民无量无边阿僧祇劫故名阿
- 04 弥陀此謂无数量也光表仏智寿表仏福以此福智嚴
- 05 本法身三徳円備以立嘉号余如下文通題中梵云修多
- 06 羅此翻為線線能貫撮即喻教詮文理連貫包摂群機

〈殘簡⑤左〉

- 01 訓法常義如常説次釈經文大分三分初至大衆俱為序分二
- 02 爾時仏告下至是為甚難為正宗分三仏説此經已下至
- 03 末文為流通分初中諸經皆有証信發起三序此經但
- 04 別証信独无發起往生伝序云此乃十二分教无問自説
- 05 之經其猶母之拊嬰兒不俟其請但欲顧其手足乳而哺之耳
- 06 今以義求略為二意一表他方淨刹非二乘偏小境界縱

〈二丁右〉

- 01 有推行示同不知不仮因縁孤然自説彰其持異即下諸仏
- 02 歎釈迦云能為甚難希有之事説此世間難信之法是也
- 03 二表我仏世尊大慈憫物如母愛子憐其小騃不能請問召
- 04 以誨之彰其深切故下如来囑云汝等皆當信受我語及諸仏

05 所說是也已經言如是已下云成就大師（『序分義』、『大正藏』卷二七・二五二頁上）云如是者指法定散
06 兩門也云云即指正宗所說法門信成就言我聞者阿難自

△二丁左

01 言親從仏聞非他伝告即聞成就三一時者主伴云集說聽

02 始終簡非余時即時成就准觀經疏一時已下是發起故

03 下讚四（『法事讚』卷下、『大正藏』卷四七・四三二頁上）云与仏声聞菩薩衆同遊舍衛至乃開顯无生淨土

04 門已上仏者釈迦教主金口親宣非余所說即主成就具

05 云仏陀翻云覺者名乃通此局妙覺究竟極果十号

06 之一是為通号五在舍衛等者說經有処拏舍衛乃

△二丁右

01 遊化之境拏祇園即依住之処即処成就舍衛翻聞物

02 言人物富庶遠聞諸国故祇陀施樹給孤買園共成

03 仏刹故以為名六与大比丘下道俗四部大衆同会非我

04 独聞即衆成就衆有三類初声聞衆二并諸下即菩薩衆

05 三及釈提下天人衆声聞常時侍仏威儀復勝故在前

06 列菩薩隱顯无定形服不物故以次之人天俗衆形服善乖

△三丁左

01 故列于後初中有四初示数二皆是下歎德三長老下列

02 名四如是下總結初中与大比丘等如觀經疏釈比丘或

- 03 云苾芻此翻乞士乞食資身乞法練心又翻怖魔志怖
- 04 彼魔德令魔怖又云破惡稟戒破業定惠破惑此三因
- 05 果号如後言僧者梵云僧伽此翻為衆四人已上為衆
- 06 仏身兼衆故云与俱言皆是大阿羅漢者亦有三翻初

〈四丁右〉

- 01 摩訶俱絺羅者肇公疏云木患云骨高大是舍利弗舅甚
- 02 大聰明初為外道師名曰長爪梵志上又天台〔小經義記、〔大正藏〕卷二七・三〇六頁中〕云摩訶俱
- 03 絺羅弁才无滯此翻大膝上靈臺上之疏〔小經義疏、〔大正藏〕卷二七・三五八頁中〕云拘絺羅此翻大膝
- 04 有云膝蓋大故舍利弗舅与姉論義論常勝姉孕不勝知懷智
- 05 人遂往南天竺誦誦衆經无暇剪爪時人呼為長爪

- 06 梵志上言離婆多靈芝疏〔小經義疏、〔大正藏〕卷二七・三五八頁中〕云離婆多亦云離越此翻

〈四丁左〉

- 01 星宿或云室宿父母從星乞得因星作名或云仮和合文殊
- 02 問經称常作声有引智論管宿空亭証二鬼争屍依実
- 03 判婦小鬼大鬼怒拔其手足小鬼取屍補之因其煩惱不
- 04 測誰身故云仮和合又心懷疑惑逢人即問見我身否衆
- 05 僧語云汝身本是他之遺体非己有也因即得道故以為
- 06 名言周利槃陀伽者円測疏云此云蛇奴或云路生若依

〈五丁右〉

01 本生経或翻道辺有一長者女子然奴為夫夫与妻逃後

02 時懷任還家欲産来向家道在辺宿即生一兒夫復追来

03 即將而還復即懷身如前道辺亦生一兒是名摩訶槃陀

04 此云大道辺弟名周梨槃陀此云小道辺上言難陀者肇

05 公疏云難陀此云喜至乃即仏之弟夷母所生時白淨王適有

06 悉達棄家人道無人嗣位心常致憂及生難陀儀貌似兄

〈五丁左〉

01 堪繼洪業故心少喜上言阿難陀者肇公疏云此云歡喜也又

02 次世世修忍辱故身端正人見歡喜因為字上靈芝疏『小經義疏』、『大正藏』卷三七・三五八頁中云

03 阿難此云歡喜或云无染淨飯王聞太子成仏王大歡喜白

04 飯王奏生兒举国忻然因為名上（慈恩『小經疏』、『大正藏』卷三七・三一六頁下）言羅睺羅者此云覆

05 障亦曰宮生五百弟子本起経云我昔為王請衆僧令安

06 後園忘六日不与其食然我无惡心以忘因縁墮黒繩地

〈六丁右〉

01 獄六万歳最後六年乃出故云覆障上玄二云耶輸陀羅

02 之中子非瞿夷子仏初出家夜始今胎於初成道夜

03 生上靈芝疏（『小經義疏』、『大正藏』卷三七・三五八頁中）下云羅睺羅此云覆障仏之嫡子嚮往業

04 故在胎六年故言覆障真諦云羅睺本言修羅能手

05 障日月忘言障月仏言我法如月此兒障我不即出
06 家世世障我世世能捨故云覆障言憍梵波提者靈

〈六丁左〉

01 芝疏〔小經義疏〕、〔大正藏〕卷三七・三五八頁下 云憍梵波提此翻牛呵音或云牛王或云牛迹昔五百

02 世曾作牛王余報未盡唵唵常嚼時人稱為牛呵亦

03 由此故名牛迹避人見笑常居天上云言寶頭盧頗羅

04 墮者靈芝疏〔小經義疏〕、〔大正藏〕卷三七・三五八頁下 云寶頭盧頗羅墮上是名下是姓寶頭

05 盧此翻不動言其頗羅墮真諦翻捷疾或利根或

06 広語言其婆羅門中一姓也言迦留陀夷者元曉疏〔小經疏〕、〔大正藏〕卷三七・三四九頁上

〈七丁右〉

01 云迦留陀夷此云黒上此是悉達未出家時之師也上玄一

02 記云迦留陀夷者翻黒色從此制作時食者也上言摩訶

03 劫寶那者円測疏云此云房宿仏与同房化作老比丘為之說

04 法因而得道故云房宿上靈芝疏 〔小經義疏〕、〔大正藏〕卷三七・三五八頁下 云劫寶那此翻房宿音秀

05 痔星感子故以為名又初出家欲往見仏夜雨寄陶師家宿

06 又一比丘隨後而來前比丘推草与之在地而坐後比丘即

〈七丁左〉

01 為說法豁然得道後比丘即是仏共仏房宿從得道

02 処為名言薄拘羅者肇公疏云薄俱羅此云善容謂

- 03 好容儀過去會持一不殺戒今得五不死報一釜煮
- 04 不死二罄博不燒三墮水不溺四魚吞不爛五刀割
- 05 不傷五百弟子自說本起經云我昔曾施病僧藥及
- 06 施沙門呵梨勒九十一劫以來不墮惡道今年一百六十

〈八丁右〉

- 01 未曾有病上已阿菟樓駄肇公疏云亦言阿泥盧豆亦阿菟
- 02 樓駄此云如意是白淨王第四弟甘露王之子過去曾以一食
- 03 施辟佉十五劫來天上人間受勝妙樂末後生此積種
- 04 之中得阿羅漢所須如意因為名上已又玄一記云梵正
- 05 音阿泥律陀反无滅佉之党弟過去盜賊取物闇故以
- 06 矣之本而正灯時火明照珍宝即作此念他以自物如是

〈八丁左〉

- 01 供養不宜盜取捨而來彼時增明故九十一劫常得明眼
- 02 今生中天眼第一 大阿羅漢上已靈芝疏〔小經義疏、〔大正藏〕卷三七・三五八頁下〕云阿菟樓駄亦云阿
- 03 那律或云阿尼盧豆皆梵音奢切耳此翻无貧亦云如意
- 04 或云无竭昔於飢世施辟支佉稗飯九十一劫果報充足
- 05 故以為名總結畢舉上首一十六人不可尽列故云如
- 06 是等南山云学在我後故為弟解從我生故子次

〈九丁右〉

- 01 菩薩中三初示數二文殊下列名三与如下總結初中同聞
- 02 極衆略拳四名故云諸也云又（元照『小經義疏』、『大正藏』卷三七・三五八頁下―三五九頁上）云列名中文殊師利亦云曼
- 03 殊室利此翻妙吉祥即彰其所証吉祥美其利物或云妙
- 04 德義亦同之紹隆仏種稱法王子智論云仏為法王菩薩
- 05 入正法位乃至十地悉名法王子乃知此名該下諸位阿逸
- 06 多此云无能勝言其悲智非偏小所及乾陀訶提此翻不

〈九丁左〉

- 01 休息衆生无尽修因感果无窮已故常精進者衆生無量
 - 02 上求下化無暫懈故總結中然菩薩名通於初後如上
 - 03 所列莫非深位補処或是權現影響故云諸大也三人天
 - 04 中釈提桓因具云釈迦因陀羅此翻能天帝即三十三天
 - 05 主今言帝釈即華梵双拳大梵四王天衆甚多不復
 - 06 尽拳故云无量也更兼道俗四衆龍鬼八部故云大衆
- △一〇丁右
- 01 俱序中從略文見流通上
 - 02 從下接至于供養 述曰諸仏大悲心无二方便化
 - 03 門等无殊者是總述仏道同之義然有人云弥
 - 04 陀一仏違諸仏捨諸行唯取称名一行為本願云何

05 弥陀一仏背三世道同之義唯取称名二行為本願乎

06 第十九願〔大經〕卷上、〔大正藏〕卷二二・二六八頁上云發菩提心修諸功德〔云〕第二十願〔大經〕卷上、〔大正藏〕卷二二・二六八頁中係念我

〔一〇丁左〕

01 殖諸徳本〔云〕十八十九二十共為本願何立虚願成仏乎

02 言捨彼莊嚴无勝土等者是別述本師之徳然言捨彼

03 莊嚴等者随機之説彼報是化豈実捨之乎玄義〔玄義分、〔大正藏〕卷三七・二四六頁上〕云

04 大悲隱西化驚人火宅之門〔云〕准知般舟讚〔大正藏〕卷四七・四四八頁中〕云釈迦

05 如来真報土清淨莊嚴无勝是為度娑婆分化入

06 八相成仏度衆生〔云〕涅槃經〔北本卷二四、〔大正藏〕卷二一・五〇八頁下、一五〇九頁上〕云善男子西方去此娑婆

〔一一丁右〕

01 界度四十二恒河沙等諸仏国彼有世界名曰无勝其土

02 所有莊嚴之事悉皆平等无有差別猶如西方安樂世

03 界亦如東方滿月世界我於彼土出現於世為化衆生

04 故於此界閻浮提中現轉法輪非但我身独於此中現轉法

05 輪一切諸仏亦此中而轉法輪〔云〕故知今隱於真身現於化

06 身故云捨彼莊嚴言八相等者淨影〔大經義疏〕卷上、〔大正藏〕卷三七・九四頁下〕云具有十相一昇兜率

〔一二丁左〕

01 天二来下入胎三住胎中四出生五童子相六娉妻相七

02 出家相八成仏道九轉法輪相十般涅槃相〔上〕言或現真

- 03 形而利物者或本云无利物今謂以而本為正无本是非
- 04 也直現仏身云真形言或同雜類化凡愚者現六道隨
- 05 類身云或同道雜類言分身六道无停息變現隨宜度
- 06 有流者是細釈上或同雜類化凡愚也言有流見解

〈二丁右〉

- 01 心非一故有八万四千門者是明对八万四千塵勞門有
- 02 八万四千对治明知設千仏出世勸化无量衆生雖
- 03 欲令往生極樂淨土於定散二善雖為何法以一行不能
- 04 成就之何者无量衆生機根不同機根多種教法一
- 05 種不応理故智論『大智度論』卷一九、『大正藏』卷二五・二九八頁上云譬如藥師不得以一藥治衆病衆
- 06 病不同藥亦不一仏亦如是隨衆生病種種衆藥治

〈二丁左〉

- 01 云故知弥陀必当發念仏諸行之誓願也釈尊以当說
- 02 念仏諸行往生所以者何无量衆生機根不同故機根
- 03 多種教法一種不応理故耆婆何時設一方一藥療四
- 04 百四病哉病患多種方藥一種不応理故応病投藥
- 05 是耆婆之秘術也応機根設法藥是如來之善巧也
- 06 応知言衆等已下如上卷

〈三丁右〉

- 01 従高樓至于供養 述曰釈迦如来成正覺四十
- 02 九歳度衆生者下座述讚智論第二〔『大智度論』卷三・『大正藏』卷二五・八〇頁下〕云我出家以来已
- 03 過五十歳上此文意依三十成道七十九入滅之義歟
- 04 七十九年二月半入滅時分小故除之云四十九載歟法聡
- 05 觀經記〔『淨全』卷五・二二・三七頁上〕云十九出家三十成道年八十唱入涅槃上然今
- 06 第三十年与第八十年非滿數年故約滿數年云四十

〈三丁左〉

- 01 九載云五天竺二国皆行化等者述起化之处并降魔
 - 02 之相言天上天下無過仏述独尊之義言慈悲救苦
 - 03 実難逢者重述悲心念念縁三界意言或放神光
 - 04 遍六道者是為信不人現神通言蒙光触者起慈心
 - 05 者経〔『觀經』、『大正藏』卷二二・三四頁下〕云无縁慈摂諸衆生云彼弥陀慈
 - 06 光彼此異被縁慈光故所化之機亦起慈心可知言
- 〈四丁右〉
- 01 或住或来皆尽益等者是述断十二因縁流転故云断追
 - 02 尋言或震大地山河海等者是亦為不信者現神通輪
 - 03 言或自說法等已下述浄土之教言逍遙快樂不相侵者
 - 04 述不煩惱相侵言等已下如上

05 從高樓至于供養 述曰如來教法元无二等

06 者述一音教之意羅什菩提流支共是一音教師也二

〈一四丁左〉

01 師之義少異也応知言不留殘結証生空等者述同聞衆

02 声聞之德殘結是所斷惑障也証生空者是人空之理也

03 声聞未断法執故云証生空言或現神通等已下述降魔

04 之相自利一身者玄義〔玄義分、大正藏〕云言自覺者簡異凡夫此由声〔卷三七・二四六頁中〕

05 聞狹劣唯能自利關无利關无利他大悲故已准知

06 言灰身滅智无余証等者是述无余還生故龍樹菩

〈一五丁右〉

01 薩菩提心論〔大正藏卷三〕云真言行者当觀二乘之人雖破人執猶

02 有法執但淨意識不知其他久久成果位以灰身滅智趣其

03 涅槃如太虚空湛然常寂有定性者難可發生要待劫限

04 等滿方乃發生若不定性者無論劫限遇緣使廻心向大

05 從化城起以為超三界謂宿信仏故乃蒙諸仏菩薩加

06 持力而以方便遂發大心云云准知衆等者如上

〈一五丁左〉

01 從高樓于供養 述曰菩薩大衆无殃数等者同

02 聞衆菩薩之德言文殊師利最為尊者述上首之德言發

03 大慈悲行苦行者述悲願齋度言或現上好莊嚴相等
04 者智論云莊嚴身菩薩言含靈觀見等者述所化証入
05 言十方仏国身皆到助仏神光転法輪者述分身輪言
06 衆等者已下如上

〈一六丁右〉

01 從高樓至于供養 述曰与仏声聞菩薩衆同遊

02 舍衛乃至住祇園願閉三塗絶六道開顯无生淨土門者述

03 發之意言誓到弥陀安養界等者述淨土正因慈旨叶

04 囉須銘飢骨言衆等已下如上

05 從高樓至于極樂 述曰高樓等総讚可知高座

06 入文可知経爾時仏告長老舍利弗者指上一時今云爾時

〈一六丁左〉

01 言仏告長老舍利弗者身子大権智恵第一知言解意深

02 契仏懷故使諸経多令対語才弁起倫及至此経殊无一

03 祠申疑請問從始至未尽是如来呼以告之言從是已下即

04 所告事上四句慄依報淨土多種今此所慄報身報土如世

05 郊国方向遠近二階是定対此極苦故名極樂亦名安

06 樂亦号安養十萬億刹凡情疑遠故觀経（『大正藏』卷二二）云去此不遠

〈一七丁右〉

01 大師〔序分義〕、『大正藏』卷三七・二五九頁上云言阿弥陀仏不遠者正明懷境以住心即有其三一

02 明分齊不遠從此超過十萬億刹即是弥陀之國二明道

03 理雖遙去時一念即到三明韋提等及未來有緣衆生

04 注心觀念定境相應行人自然常見有斯三義故云不

05 遠也上下三句懽正報但述化主兼徒衆非過未故云

06 現在也舍利不別釈依正又二從初至極樂說依報言

〈一七丁左〉

01 何故名為極樂者徵問下句仏答言无衆苦者総有八

02 苦彼土衆生由大善根蓮花化生故无生苦常少不老

03 故无老死四大調和故无病若寿命无量現窮聖德无

04 死苦无愛著外无違害故无怨增会苦徹妙境界隨

05 心自在故无求不得苦无地獄鬼畜刀杖殺縛等故无

06 五感陰苦彼土一切内外境界悉生六識深妙喜樂且約

〈一八丁右〉

01 經文出其一二林池宮殿衆宝嚴淨微妙色光能生眼樂

02 諸天妓樂鳥樹羅網種種音声能生耳樂妙香飯食宝

03 衣絰行如次能生鼻舌身樂宝地柔軟微風適悅飛行

04 遊戲亦生身樂觸諸境界念仏法僧无量功德能生意

05 樂如是樂相說不能尽心知

06 從下接至于供養 述曰人天大衆等者經說爾時

〈一八丁左〉

01 故言即告舍利用心聽積告命言一切仏土皆嚴淨等者

02 疏三〔定善義、大正藏〕云直指西方簡余九域是以一身一心一廻向一処一〔卷三七・二六頁中〕

03 境界一相統一歸依一正念是名相成就得正受此世

04 後生隨心解脫也〔已〕又今讚依隨願往生經意勸專

05 一言如來別指西方国等者准上可知言七宝莊嚴最

06 為勝者下經〔小經、大正藏〕卷〔二・三四六頁下〕云四宝然依觀經〔大正藏〕卷〔一・三四一頁中〕云七宝広略二說可知

〈一九丁右〉

01 言聖衆人天寿命長者是取下經文意云寿命長言仏号

02 弥陀常說法等者經文顯了可知言衆等已下如上

03 從高接至于極樂 述曰初至極樂拳欄網行樹以頭

04 名所言七重羅網欄楯准觀經只是樹之莊嚴一一樹各有

05 七重耳諸經不同且依一經言四宝者如次文金銀瑠璃頗

06 梨也処処有行樹今先說道側法華經〔卷三、大正藏〕卷九〔二〇頁下〕云多諸宝樹行

〈一九丁左〉

01 烈道側極樂亦爾言周匝圍繞凡仏菩薩居処皆然非

02 謂一国土有七重耳結名可解

03 從下接至于供養 述曰三界衆生等者对極樂令

04 厭穢土先出機失言无智惠愍惛六道内安身者上卷〔法事讚〕、〔大正藏〕卷四七・四二四頁下〕

05 云六道周居重昏永夜生盲無目惠照未明云准知言

06 諸仏慈心為說法等者寿經〔卷上〕、〔大正藏〕卷二・二七三頁上〕云若人无善本不得聞

△二〇丁右

01 此經云准知言忽爾无常苦來逼等者勸厭離上卷〔法事讚〕、〔大正藏〕卷四七・四二四頁下〕云但

02 以如來善巧總勸四生棄此娑婆忻生極樂專称名号

03 兼誦弥陀經欲令識彼莊嚴厭斯苦事云天台止觀〔卷七上〕、〔大正藏〕卷四六・九三頁下〕云

04 无常殺鬼不捉毫賢危脆不堅難可恃怙云何安然規

05 望百歲四方馳求貯積聚斂未足溘然長往所

06 有產貨徒為他有冥冥独逝誰訪是非云准知言專心發

△二〇丁左

01 願向西方等者勸忻求浄土即有其四一專心發願二相統

02 念仏三聖衆來迎四結文可解

03 從高接至于供養 述曰歷劫已來未聞見西方

04 浄土宝莊嚴等者自下正讚經文言歷劫已來未聞見西方

05 浄土等者无量生死之中得人身甚難縱得人身具諸根

06 亦難縱具諸根遇仏教亦難故云未聞見言地上虚空皆

△二丁右

01 遍滿等者今且略地下莊嚴珠羅寶網百千重者讚寶

02 樹莊嚴言一一網羅結珍宝玲瓏雜色尽暉光等者觀經（『大正藏』卷一）云（二・三四頁中）

03 一一樹高八千由旬其諸宝樹七宝花葉无不具足一一花葉

04 作異宝色琉璃中出金色光頗梨色中出紅色光瑪瑙色

05 中出碑渠光碑渠色中出綠真珠光珊瑚虎魄一切衆宝以為

06 映飾妙真珠網彌覆樹上一一樹上有七重網云云准知言此

△二丁左

01 是弥陀悲願力者歎撰淨土之願言无衰无变湛然常者

02 是对穢土之三災壞劫歎彼土云无衰无变湛然常故寿經（卷上、『大正藏』卷一）云（二・二六九頁下）

03 建立常然无衰无变云云准知

04 從高接至于莊嚴 述曰經言又舍利弗等者說宝

05 中分四初明池水二池畔階道三階上樓閣四池中蓮花初

06 中七宝池者彼有八池七宝所成池中之水亦七宝色名八

△三丁右

01 功德一澄清二清冷三甘美四輕爽五潤沢六安和七除飢

02 渴八長養諸根言金沙布地者觀經（『大正藏』卷一）云（二・三四頁中）云渠下皆雜色金

03 剛以為底沙二中階砌亦即四宝三明樓閣乃列七宝云云

04 四示蓮花有五形量二顔色三光燄四香氣五潔淨对

05 文可見若準觀經一一池中有六十億七宝蓮花一一蓮花
06 團圓正等十二由旬既言七宝非止四色十二由旬非止車

△三丁左

01 輪然車有大小難為定準此間極大不過尺可依輪王車輪

02 為量十住婆沙（卷一七、『天正藏』卷）云轉輪聖王千輻金輪種種珍宝莊嚴其

03 網琉璃為轂周圍十五里準此未及半由旬亦約小者所

04 以二經不同者花有大小彼捩極大此約最小今準大經

05 池中蓮花或由旬乃至百千由旬則知大小一經中但

06 是隨宜趣舉不必以此較經優劣結示中如是者指上多種

△三丁右

01 殊妙之相皆是弥陀菩提願行從因至果歷劫熏修之所成就

02 故云功德莊嚴心知

03 從下接至于供養 述曰極樂世界広清淨者準淨土論

04 是讚量功德成就言地上莊嚴難可量者是讚地上莊嚴經

05 說八功德水故云八功經說微妙香潔故云香池經說充滿其

06 中故云流遍滿經說池底純以金沙布地故云底布金沙照異

△三丁左

01 光經說四辺階道金銀琉璃玻瓈合成故云四辺階道非一色

02 經上有樓閣亦以金銀乃至而嚴飾之故云岸上重樓百乃

- 03 行真珠碼瑙相映飾經說池中蓮花大如車輪等故云四種
04 蓮花開即香等言十方人天得生者各坐一箇聽真常者
05 般舟讚（『大正藏』卷四七・四五〇頁下）一大会隨人入入処唯聞平等法云彼此兩文是
06 同也是故等者顯名可知言衆等已下如上
- △二四丁右
- 01 從高接至于莊嚴 述曰又舍利弗等者文有三一天二
02 金地三天花初常作天樂者準觀經作樂有三水觀中（『大正藏』卷一・二・三四二頁上）云
03 百億花幢无量樂器以為莊嚴八種清風鼓此樂器等
04 又樓觀（『大正藏』卷一・二・三四二頁下）云其樓閣中有无量諸天作天伎樂又有樂器懸
05 処虚空不鼓自鳴等準下經云風吹樹網如百千種樂
06 故知彼上天樂非一二黃金為地者準觀經彼国皆琉璃
- △二四丁左
- 01 地以黃金繩雜廁間錯兼以七宝界其分齊今言黃金乃地
02 面莊嚴耳三天花又三初六時雨花其土下二盛花供養即以
03 下三供已還国初中彼国光明常照既无日月則无昼
04 夜順此方機且言六時準壽經中彼以蓮開鳥鳴為曉蓮
05 合鳥棲為夜曼陀羅此翻適意言其美也又翻白花取其
06 色其色也二中其土衆生通目九品衣祴者真諦云外国

△二五丁右

01 盛花器也天台義記〔小経義記、大正蔵〕卷三七・三〇六頁下云衣械者是盛花器形如函蓋而

02 有一足手擎供養云三中食時謂中前也寿経云彼国宮殿

03 衣服飲食猶第六天自然之物若欲食時七宝応器自

04 然在前百味飲食自然盈滿雖有此食実无食者但見

05 色聞香自然飽足事已化去時至復現等寄歸伝云五天

06 道俗多作経行直去直来唯遵一路如織之経故曰経行

△二五丁左

01 四分律経行有五益一堪遠行二能思惟三少病四消食

02 五得定久住結示同前

03 從下接至于供養 述曰弥陀仏国最為勝等者

04 観経〔大正蔵〕卷一 二・三四一頁中云爾時世尊放眉間光其光金色遍照十方无量

05 世界還住仏頂化為金台如須弥山十方諸仏浄妙国

06 土皆於中現或有国土七宝合成復有国土純是蓮花復

△二六丁右

01 有国土如自在天宮復有国土如頗梨鏡十方国土皆於中

02 現如是等无量諸仏国土巖顯可觀令韋提希見時韋提

03 希白仏言世尊是諸仏土雖復清浄皆有光明我今樂

04 生極樂世界阿弥陀仏所〔已上疏〕二釈〔序分義、大正蔵〕卷三七・二五八頁中云此明夫人總見十方

05 仏国並悉精花欲比極樂莊嚴全非比況故云我今樂
06 生安樂国也云云言天樂音聲常遍滿者經說常作天樂

△二六丁左

01 故言黄金為地等者經說黄金為地故言昼夜六時花自
02 散者經說昼夜六時雨天曼陀羅花故上經說今現在說
03 法故云法音常說自然聞言彼国衆生更无事衣械盛花
04 詣十方等者經說各以衣械盛衆妙花等故言爾飛騰
05 還本国飯食經行七宝台者經說即以食時還到本国
06 飯食經行故言衆等已下如上

△二七丁右

01 從高接至于莊嚴 述曰經言復次舍利弗彼国常有
02 種種奇妙雜色之鳥者慈恩『通贊疏』卷中、『大正藏』卷三七・三四頁中云鳥吟妙法分文之為二初叙
03 靈禽二去疑執初文有五第一總叙靈禽第二分別名字
04 三伝和雅四詮顯法音第五聞興善念此即初也復次者
05 重也次者以次變復徵問故云復次彼国者即西方常有
06 恒有也種種者不一故云種種奇妙者奇也異也妙者殊
△二七丁左

01 妙希奇雜色者毛色各異也已上列衆禽略舉六種前三
02 易識舍利此云春鸞或云鶯鷺迦陵頻伽此翻妙声在

03 殼中鳴已超衆鳥共命者兩首一身報同識異故法花中

04 翻為命命鳥是也是諸下次明演法和雅謂声音感人

05 演暢謂說法无滯五根者一信二精進三念四定五慧能

06 生聖道故名根即此五法能排業惑故名為力七菩提

△二八丁右

01 分即七覺支一挾法二精進三喜四除五捨六定七念

02 无学実覺七事能到故名為分八正道分者一正見

03 二正惟三正語四正業五正命六正精進七正念八正

04 定前二惠学中三戒学後三定学即是離明三学初

05 果已去見真諦理皆名正道亦名聖道準觀經（『大正藏』卷二一・三四二頁下）云常讚

06 念仏念法念僧或說苦空无常无我諸波羅蜜故云如

△二八丁左

01 是等法其土下後顯益物念仏知仏恩重念法知法

02 功深念僧知僧德大知此界心垢常思五欲彼方心淨專念

03 三宝晨夕所存更无他意向土昇沈於茲可見次積疑

04 中二段初至有実遮其疑情是諸下二次所疑事初

05 中三節先遮疑情濁世禽畜罪業所招極染淨土何

06 緣有此所以下次伸意彼国唯人天兩道法祇願（『大經』卷上、『大正藏』卷二一・二六七頁下）云設

△一九丁右

01 我得仏国有地獄餓鬼畜生者不取正覺舍利下三举

02 況寿経（卷上、『大正蔵』卷一）云彼国无有三涂苦難之名但有自然快樂之

03 音是故其国名曰安樂二次疑中弥陀變化者準觀經

04 即池水中如意珠王涌出金光化為百宝色鳥和鳴哀

05 雅当知衆鳥即是弥陀化身欲使法音遍布遠近顯知

06 非是罪報所生也又風樹妙音二初示相即前樹網風動

△一九丁左

01 成音其音美妙如衆樂焉聞是下顯益同前結示可解

02 從下接至于供養 道場清淨希難見弥陀淨土甚難聞

03 等者寿経下（『大正蔵』卷一）云仏語弥勒如来興世難值難見諸仏経道難

04 得難聞菩薩勝法諸波羅得聞亦難遇善知識聞法能行

05 此亦為難若聞斯经信樂受持難中之難无過此難（已準）

06 知言如說修行專意專者又経（『大正蔵』卷下、『大正蔵』卷二・二七九頁上）云是故我法如是作如是說

△二〇丁右

01 如是教心当信順如法修行（已）願慈悲遙摂受者是

02 現生護念増上縁也觀経（『大正蔵』卷一）云念仏衆生摂取不捨又（『大正蔵』卷一）云以无

03 縁慈摂諸衆生（云）準知言臨終宝座現其前等者是摂生

04 増上縁又第九門来迎言從仏逍遥歸自然者是生後之

05 益言自然者所証之理是一法性法身言自然即是弥陀
06 国者は二十九種莊嚴方便法身也言无漏者能証之

△三〇丁左

01 智言无生者所証之理言還即真者是能所一致也言行來
02 進上常隨仏証得无為法性身者是述法性生身之位
03 或初地已上或八地已上可知衆等已下如上
04 從高接至于供養 述曰極樂莊嚴間雜宝已下
05 正讚經文從極樂至未聞已來重述上意言宝鳥臨
06 空讚仏会等者經說是諸衆鳥昼夜六時出和雅音等

△三一丁右

01 故宝鳥所說文文句句所証之理相同也言哀婉雅亮發人
02 心者經（『小經』、『大正藏』卷二一・三四七頁上）說和雅音（至其土衆生聞是音已皆悉念仏念法）
03 念僧故言或說五根七覺分等者經文可知言或說他等
04 已下述經意經說如是等法故言菩薩聲聞已下文意
05 可知言衆等已下如上
06 從高接至于供養 述曰極樂莊嚴出三界等

△三二丁左

01 者安樂集（卷上、『大正藏』卷四七・七頁中）云又依智度論云淨土報无欲故非欲界地
02 居故非色界有形色故非无色界雖言地居精妙絕是

- 03 故天親論云觀彼世界相勝過三界道究竟如虚空広
- 04 大无边際是故大經讚云妙土広大超数限自然七宝
- 05 合成仏本願力莊嚴起稽首清浄大摂受世界光耀
- 06 妙殊絶適悦晏无四時自利利他力円満歸命方便

△三丁右

- 01 巧莊嚴已言或現鳥身能說法者經文顯了可見言或現
- 02 无請能応機者是慈悲无極故言或使微波出妙響者
- 03 惠心略記〔天正藏〕卷五七
：六七五頁上中云欄楯之外有七宝池金沙布底八功德水充滿
- 04 其中表裏映徹傍道而流柔軟七宝以成其水清涼香潔味
- 05 如甘露微瀾廻流不遲不速其声微妙无不法音或出
- 06 苦空无我諸波羅蜜声或出十力无畏不共法音或大

△三丁左

- 01 慈大悲声或无生法忍声无有三途苦難之名但有自
- 02 然快樂之音衆生聞者念仏法僧有洗浴者淺深隨念
- 03 蕩除心垢隨心悟道云言或使林樹讚慈悲等者靈
- 04 芝疏〔天正藏〕卷三二
（七・三六〇頁下）云二風樹妙音分二初示相即樹網風動成音其音
- 05 美妙如衆樂焉已言為引他方凡聖類故仏現此不
- 06 思議文意可知言我等聞之身毛豎碎骨慚謝阿弥

△三三丁右

01 師者此段居韻故云師言受專精已下明精進修行得果
02 言衆等已下如上

03 從下接至于供養 述曰弥陀仏国真嚴淨三惡

04 六道永无名者經說其仏国土尚無三惡道之名故言事

05 事莊嚴難可識等者二十九種莊嚴故云事事言地廻

06 寬平衆宝等者觀經（『大正藏』卷一
二・三四二頁上）云見琉璃地内外映徹下有金剛

△三三丁左

01 七宝幢擎琉璃地其幢八方八楞具足一一方面百宝

02 所成一宝珠有千光明一一光明八万四千色映琉

03 璃地如億千日乃至有五百色光云故云一一同耀五百光

04 言一一光成宝台座一座上百千堂千堂化仏塵

05 沙会者經（『觀經』、『大正藏』卷
四二二・三三頁上）云其光如花又似星月懸処虚空成光明台

06 樓閣千万百宝合成云准知言衆生入者共相量乃至化

△三四丁右

01 天童子散花香晝夜六時无間息經（『小經』、『大正藏』卷
一一・三四七頁上）云晝夜六時雨

02 天曼陀羅花乃至乃供養他方十万億仏云般舟讚（『大正藏』卷四
七・四五〇頁下）云

03 共諸童子遊空戲手散香花一心供養云准知言地

04 上虚空難可量者文意可知言八德香池随意入

05 等者寿経意可知言徐徐相喚入檀林等者文意
06 可知言聖衆等已下法譬言超日月者是言聖衆

△三四丁左

01 光明可知言日月即是長時劫者寄穢土日月云淨

02 土長時劫言或座或立等者般舟讚（『大正藏』卷四七・四五〇頁下）云即作神通遍

03 仏国処処供養无边会一大会随人入入処唯

04 聞平等法云云永絶凡夫生死殃者得生之益言是

05 故等者結名可知言衆等已下可知

06 從高接至于莊嚴 述曰自下明正報中分二初

△三五丁右

01 至十劫化主名号舍利下二徒衆莊嚴初中復二初

02 徵問汝意云何審其解否既无所对故為釈通阿弥陀

03 此翻无量光亦翻无量寿无量是総所謂眷属无量

04 莊嚴无量光明无量命无量也无量光无量寿是別

05 也初光明无量者仏光有二種色光心光是也礼讚（『大正藏』卷四七・四三九頁下）云問

06 曰何故号阿弥陀答曰弥陀経及観経云彼仏光明无量

△三五丁左

01 照十方国无所障礙唯観念仏衆生撰取不捨故名阿弥

02 陀彼寿命及其人民无量无边阿僧祇劫故名阿弥陀解

03 云无量者无其限量无边者彼无边阿僧祇劫此云无
04 央数劫也寿命者八識種上連持功能也即是不相応

05 行中摂也又(『礼讚』、『大正藏』卷四七
四三九頁下、四四〇頁上)云釈迦仏及十方仏讚歎弥陀光明有十

06 二種名普勸衆生称名礼拝相続不断者現世得

△三六丁右△

01 无量功德命終之後定得往生如无量寿経説云其有衆

02 生遇斯光者三垢消滅身意柔軟歡喜踊躍善心焉若

03 在三塗勤苦之処見此光明无復苦惱寿終之後皆得解

04 脱无量寿仏光明顕赫照耀十方諸仏国土莫不聞焉

05 不但我今称其光一切諸仏声聞縁覚諸菩薩衆咸共歎

06 誉亦復如是若有衆生聞其光明威神功德日夜称説

△三六丁左△

01 至心不断者随其所願得生其国常為諸菩薩声聞之衆

02 所共歎誉称其功德仏言我説无量寿仏光明威神巍巍

03 殊妙昼夜一劫尚不能尽白諸行者当知弥陀身相光

04 明釈迦如来一劫説不能尽者如観経云一一光明遍照

05 世界念仏衆生摂取不捨今既観経有如此不思議増上

06 勝縁摂護行者何不相続称礼念願往生也比解曰上

〈三七丁右〉

01 釈〔禮讚〕、〔大正藏〕卷〔四七・四三九頁下〕云唯觀念仏衆生撰取不捨云云上釈觀下釈添称云

02 称觀上釈念下釈添礼云礼念上釈唯出正業故云唯觀

03 念仏下釈添助業故云称觀礼念能思之又仏寿有二法

04 報二仏一向无量化身仏皆具長短二量今此浄土弥陀報

05 身報土故示其長遠言成仏已来於今十劫者元曉記〔大正藏〕卷〔七・三四九頁下〕云於

06 今十劫者為遺疑情到今已所過逕十劫当知今後无量

〈三七丁左〉

01 劫住已慈恩、〔通贊疏〕卷中、〔大正藏〕卷〔三・三四一頁中〕云經舍利弗阿弥陀仏成仏已来於今十劫贊

02 曰第三明成仏劫数已靈芝疏、〔大正藏〕卷〔七・三六一頁上〕云言十劫者準法花大通智

03 勝仏時弥陀乃是十六王子之一数釈迦既經摩劫弥陀豈得

04 不然已慈恩、〔通贊疏〕卷中、〔大正藏〕卷〔三・三四二頁中〕云經又舍利弗彼仏有无量无边声聞弟

05 子皆阿羅漢非是算数之所能知諸菩薩衆亦復如是贊

06 曰第二弁聽衆功德文分為四初小大衆算数无边二弁

〈三八丁右〉

01 新旧二徒因行有異三釈生彼国四釈生利益此初分二

02 初弁衆多少二結成莊嚴此初也声聞弟子者声聞弟

03 子因声悟道故曰声聞弟子者長在我後名弟解從我

04 生名字皆阿羅漢者棟前三果故也非算数之所知者

05 算数数不及故菩薩亦如是者亦同声聞算之不及也至乃

06 報浄土中声聞權化約其殊勝不説余三化浄土中四

△三八丁左

01 果皆有加行位中能伏分別得居浄土也无量寿経論云二

02 乘種不生約報土也已解曰此師依自力分別不許他力增

03 上縁違大師解釈靈芝疏〔大正藏〕卷三七
三六二頁上中云又舍利下別顯行功初中又

04 二初利下結示初中声聞弟子即中三品諸菩薩衆即

05 上品総撰初心不退補処云解曰此积非也今経声聞菩薩

06 是彼土徒衆全非九品之類也上品上生経〔觀経〕、〔大正藏〕卷
二二・三四頁下云仏告阿難及

△三九丁右

01 韋提希上品上生若有衆生願生彼国者発三種心即便往

02 生何等為三一者至誠心二者深心三者廻向発願心具三心者

03 必生彼国復有三種衆生云然靈芝疏〔大正藏〕卷三
七・二九九頁中积今経文云已生彼

04 国之人云若如所判者何故経云若有衆生或云具三心者

05 必生彼国或云復有三種衆生当得往生云全非已生已

06 下亦爾也応知言如是功德莊嚴結成莊嚴也

△三九丁左

01 從下接至于供養 述曰果徳涅槃常住世者歎所証

02 之理是法身言寿命延長難可量等者是能証之智即報

- 03 身也經（『小經』、『大正藏』卷二一・三四七頁上）云彼仏寿命及其人民无量无边故言一坐无
- 04 移亦不動者約自受用身歎之或可約内証（『法事讚』卷下、『大正藏』卷四七・四三三頁下）云一坐无移
- 05 亦不動云言徹窮後際放身光靈儀相好真金色等者
- 06 約他受用身歎之言十方凡聖專心向者是述所化言分身已
- 〈四〇丁右〉
- 01 下能化来迎言一念乘空入仏会等是得生之益言身色
- 02 寿命尽皆平者寿命同仏故云尽皆平也言衆等已下
- 03 如上
- 04 從高接至于供養 述曰彼仏從因行苦行等者
- 05 寿經（卷上、『大正藏』卷一）云我建超世願必至无上道斯願不滿足誓不成
- 06 正覺乃斯願若剋果大千応感動虚空諸天人当雨珍
- 〈四〇丁左〉
- 01 妙花仏告阿難法藏比丘說此頌已応時普地六種震動
- 02 天雨花以散其上自然音樂空中讚言決定必成无上正
- 03 覺於是法藏比丘具足修滿如是大願誠諦不虛超出
- 04 世間深染寂滅阿難時彼丘於其仏所諸天魔梵龍神
- 05 八部大衆之中発斯弘誓建此願已一向專志莊嚴妙土
- 06 所修仏国恢廓広大超勝独妙建立常然无衰无変於

〈四一丁右〉

- 01 不可思議兆載永劫積植菩薩无量德行不生欲覺瞋覺
- 02 害覺不起欲想瞋想害想不著色声香味触法忍力成就
- 03 不計衆苦少欲知足无染患痴三昧常寂智恵无礙无有虚
- 04 偽諂曲之心和顔愛語先意承問勇猛精進志願无倦専
- 05 求清白之法以恵利群生恭敬三宝奉事師長以大莊嚴
- 06 具足衆行令諸衆生功德成就住空无相无願之法无作无

〈四一丁左〉

- 01 起觀法如化遠離僞言自害害彼彼此俱害修習善語自
- 02 利利人人我兼利棄国捐王絶去財色自行六波羅蜜教
- 03 人令行若於本願捨諸行者何使人行六波羅蜜乎无殃数劫積功累德随其
- 04 生处在意所欲无量宝藏自然発応教化安立无数衆
- 05 生住於无上正真之道已解今讚即歎此経意経文云教
- 06 化安立无数衆生住於无上正真之道若於本願癡菩

〈四二丁右〉

- 01 提心何云住无上正真之道乎能思之言誓願莊嚴清
- 02 淨土者四十八願莊嚴之土故言証无為者歎所証
- 03 之理言衆等已下如
- 04 從下接至于供養、述曰弥陀化主当心坐等者举

05 化主必有所座依觀經花座觀意讚今經文言正坐
06 已來經十劫者經文可解言心緣法界照慈光者觀

〈四二丁左〉

01 經〔『大正藏』卷一
二・三四三頁中〕云念仏衆生損取不捨云云又〔『觀經』、『大正藏』卷
二・三四三頁下〕云以无緣慈損諸衆生云云

02 言蒙光觸者塵勞滅者壽經〔卷上、『大正藏』卷
二・二七〇頁中〕云其有衆生遇斯光者三垢

03 消滅云云依斯經意可言臨終見仏往西方者是第九門聖迎

04 言到彼花開入大会等者生後得益言三明自然乘仏願等

05 者讓功仏願言彼仏声聞菩薩等者經文可解言願我今生

06 強発意者述懐可知言衆等已下如上

〈四三丁右〉

01 從高接至于彼国 述云經又舍利弗極樂国土衆生生

02 者皆是阿鞞跋致者新旧二徒因行有異文分為二初新生不

03 退衆二補処位高衆此初也阿鞞跋致或云阿惟越致是

04 梵語此云不退転不退有五一信不退二位不退三証不退

05 四行不退五煩惱不退不被煩惱不退転故 問生居浄土

06 何故不退答无五退縁故一无病苦纏故二无違行故三

〈四三丁左〉

01 常誦經法四常營善五長和順无諸違諍事所以不退

02 此界人多反此応知又有欲境所牽多諸退屈也靈芝疏〔『大正藏』卷三
七・三六一頁中〕

- 03 云衆生者通收九品今師解釈〔法事讚〕卷下、〔大正藏〕卷四七・四三頁中云九品俱廻得不退云經
- 04 其中多有一生補処其數甚多非是算數所能知之但
- 05 可以無量无边阿僧祇劫說補処但高衆一生補処者補
- 06 闕処者処所此等菩薩因緣十地劫滿三祇尽此一
〔四四丁右〕
- 01 生便成正覺故云一生補処也余經文易見故只如弥
- 02 勒現居天界当来果成一生補大覺之尊三會度无边
- 03 之衆即此類故无量寿經〔卷上、〔大正藏〕卷一二・二六八頁中〕云設我得仏他方仏土諸菩薩
- 04 衆来生我國究竟名到一生補処以本願力故彼生即入
- 05 補処之位言舍利弗衆生聞者通指末代聞上所説勸
- 06 令發願願必別行行必感果所以下伸意諸上善人者
〔四四丁左〕
- 01 過現益物謂之善人即前声聞不退及補処等菩薩也
- 02 靈芝疏〔大正藏〕卷三三・七三六頁下〕云初中如來欲明持名功勝先貶余善為少善根
- 03 所謂布施持戒立寺造像礼誦坐禪懺念苦行一切福業
- 04 若无正信廻向願求皆為少善非往生因云解曰是无善
- 05 提心諸善積少善根也今師下釈〔法事讚〕卷下、〔大正藏〕卷四七・四三頁下〕云人天少善斯謂也
- 06 故智論〔大智度論〕卷二、〔大正藏〕卷二五・七三頁上〕云若世間中諸衆生業因緣故如修還福德

〈四五丁右〉

01 縁故生天上雜業因縁故人中上已无菩提心善根是雜
02 業也雜善也雜行也發菩提心菩提是大善也正行也
03 正業也応知

04 從下接至于供養 述曰釈迦如来告身子即是普

05 告苦衆生者述告命之意言娑婆六道非安処等者述

06 衆生流転言聖化同居等已下出機失所謂三毒之失初瞋

〈四五丁左〉

01 毒二无明是痴也言愛憎等者愛是貪愛自是非他喻

02 高下言何時平者何時住平等心為言言既无善業排

03 生死者無慚愧无宿善言由貪造罪未心驚者貪是財

04 色二種貪也於三業中先断財色二種若不貪財即无諂

05 諍若不貪色即无熱惱大乘經云八万四千障道罪業悉

06 因財色以為根本何以故十方衆生无始已來為財相殺

〈四六丁右〉

01 者過微塵数为色相殺者数復過是故今云由貪造罪

02 未心驚言狂此人皮裹驢骨等者此身從少生老唯是

03 不淨傾海水洗不可令淨潔外雖施端嚴相内唯裏諸

04 不淨猶如蓋瓶而盛糞穢故禪經偈云知身臭不淨

05 患者故愛憎外視好顏色不觀內不淨云故云狂此人皮

06 裹驢骨言我等聞之心髓痛等述厭離之心壽經下（『大正藏』卷一）二云愛

〈四六丁左〉

01 欲榮華不可常保皆當別離无可樂者准知

02 從高樓至于供養 述曰娑婆極苦非生處等者明對

03 娑婆極苦名極樂言九品俱迴得不退阿鞞跋致即无生者

04 是讚衆生者皆是阿鞞跋致之經文言非直初生

05 无限極者成上起下之句也是明其數共難窮言

06 如此大海塵恒沙者是新旧二徒言有緣到者入其

〈四七丁右〉

01 中者新生也言四種威儀常見仏等生後得益言普

02 勸同生等者述懷言衆等已下如上

03 從下樓至于国土 述曰經舍利弗等者慈恩（『通贊疏』卷下、『大正藏』卷二七・三四三頁中）云

04 若善男子善女人善男子梵云烏破索迦此云近事男

05 索者男若也堅持五戒堪可親近承事比丘僧故善女

06 人者烏波斯者是女若也亦持五戒堪可承事比丘尼

〈四七丁左〉

01 故西方男女二声已經聞說阿弥陀仏者慈恩（『通贊疏』卷下、『大正藏』卷二七・三四三頁中）云謂於

02 善友処聞此阿弥陀教中往生之事自尋覽執持

03 仏名号一日乃至七日一心者更无間隔故名曰一心不乱

04 者專注無數也已盡芝（『小經義疏』、『大正藏』卷三）
（七・三六一頁下―三六二頁中）云若依此經執持名号決定往

05 生即知称名是多善根多福德也昔作此解人尚遲疑

06 近得襄陽石碑經本文理冥符始懷深信彼云善男

〈四八丁右〉

01 子善女人聞說阿弥陀仏一心不乱專称名号以称名故諸

02 罪消滅即是多功德多善根多福德因縁彼石經本梁

03 陳人書至今六百余載窃疑今本相伝訛脱二分分三初

04 至不乱專念持名其人下二臨終感聖是人下三正念往生

05 初二句索時機不簡男女次二句勸信受或披教典或遇知

06 識聞必生信信故持名次七句示期限一日七日随人要約今

〈四八丁左〉

01 經制法理必依承若準大本觀經則无日限下至十念皆

02 往生十念即十声也後一句教繫想此一句經正明成業先

03 須斂念面向西方合掌正身遥想彼仏現坐道場依正

04 莊嚴光明相好自慨此身久沈苦海漂流生死孤露无

05 依譬如嬰兒墮在坑穽叫呼父母急救危忙一志依投懇

06 求脱免声声相続念念不移雖復理事行殊定散心

〈四九丁右〉

01 異皆成淨業，盡得往生。不然則無記妄緣，定成虛福耳。善

02 導問曰：何故不令作觀？直遣專稱名字，有何意耶？答：乃由

03 衆生障重，境細心麤，識颺神飛，觀難成。就是以大聖悲憐

04 直勸專稱名号，正由称名易故。相續即生。又云：弥陀世尊

05 本發深重誓願，願以光明号撰化十方。但使信心求念上

06 尽一形，下至十声，以仏願力，易得往生。問：達本空心淨土淨

〈四九丁左〉

01 何須念求生淨土？答：若真達理，語默皆不礙。修持何妨？念仏

02 若貶念仏，未曰達人。何以然？即既達法空，則不住於相。既常

03 念仏，則不滯於空。超越二邊，從容中道。念念契合弥陀

04 法身，声声流入薩婆若海。臨終決定上品上生。豈非心淨

05 仏土淨乎？故十疑論云：智者熾然求生淨土。達生体不可

06 得此，乃真无生。謂非生法外別有无生也。淨名云：雖知諸

〈五〇丁右〉

01 仏国及以衆生空，而常修淨土教化。諸衆生即斯謂也。問

02 觀經云：心作仏是心，是仏。既是仏，何須念他？仏耶？答：祇

03 由心本是仏，故令專念彼仏。梵網戒云：常須自知我是未成

04 之仏。諸仏是已成之仏。汝心仏者，未成仏也。弥陀仏者，已成仏

05 也未成之仏，久沈欲海。具足煩惱，杳无出期。已成之仏，久証

06 菩提具足威神能為物護是故諸經勸令念仏即是以己未
〈五〇丁左〉

01 成仏他已成仏而救護耳是故衆生若不念仏聖凡永隔

02 父子乖離是処輪廻去仏遠矣問四字名号凡下常聞有

03 何勝能超過衆善答仏身非相果德高深不立嘉名莫彰

04 妙体十方三世皆有異名況我弥陀以名接物是以耳聞口

05 誦无聖德攬入識心永為仏種頓除億劫重罪獲証无

06 上菩提信知非少善根是多功德也花嚴云寧受地獄苦

〈五一丁右〉

01 得聞諸仏名不受无量樂而不聞仏名藥師經云若彼仏

02 名入其耳中墮惡道者无有是処阿難諸仏境界誠為

03 難信皆是如來威力非声聞支仏所能信受唯除補処菩

04 薩耳瞻察經云欲生他方現浄土者応当隨彼世界仏

05 名專意念誦一心不乱決定得生彼浄土善根增長速

06 獲不退当知一切善根中其業最勝等余諸仏名聞

〈五一丁左〉

01 持尚爾況我弥陀有本誓乎末俗障重多忽持名故委

02 引聖言想无遲慮也已聞持記（卷下、『中統蔵』卷二一、五二九頁下、五三〇頁中）云修法持名中初科經云若

03 有等者若乃不定之詞經属化教開導信解或違或順任

- 04 彼機緣不同制教必須遵行順則無過違則結犯所以疏
- 05 科若有男女謂之索機經云聞說執持等者良由一切衆
- 06 生誰无一毫善種但以宿業障深不能開發是故疏推披

〈五二丁右〉

- 01 教典遇知識以信受之緣聞即聞惠信則思惠持即修
- 02 惠從聞思修往生決定矣今經期限雖至七日亦非定
- 03 制故皆云若但取成功為安然此制法不延不促疏
- 04 勸依承大本觀經既无日限下至十念撰機雖寬
- 05 猶恐下根不成行業後句義見次科正明淨業中

- 06 初句指經文次句默經意先下教方法初三句示修

〈五二丁左〉

- 01 儀遙下想勝境自下令慨責譬下舉事顯一下勸
- 02 用心声即口業念即心業口心相応功不虛喪故曰
- 03 相統不移下結成業不下顯无功孤山判此經属
- 04 散善雪川拋此句經別立四科広略今經一心不
- 05 乱新訳經云繫念不乱如說修行等云何散善而
- 06 解斯文巨觀音經云聞觀世音菩薩一心称名皆

〈五三丁右〉

- 01 得解脫疏曰聞即聞惠心无所依即思惠一心称名即

02 修惠此文雖窄三惠意顯又曰称名有二一事二理若
03 用心存想相統不問如請觀音繫念數息等名事一

04 心若達此心四性不生无念与空惠相応等是理一心況復

05 不乱二字智者尚作空惠相応積之今經顯云一心不乱

06 何苦貶為散善乃至若但事無无理則抑大士三昧之心

〈五三丁左〉

01 若唯理缺事則絶初心念仏之行云雪川之説其義

02 頗優雅合今疏故略録之上經其人臨命終時等者

03 靈芝疏（『大正藏』卷三七・三六二頁中）云二感聖中其人并下是人並指上文執持

04 名者臨終撰引弥陀本願大經云十方衆生志心發

05 願欲生我國臨壽終時假令不与大衆圍繞現其

06 人前者不取正覺聖衆現前亦有多別或真

〈五四丁右〉

01 仏化仏觀音勢至隨其品位委觀經三正念中凡人臨

02 終識神无主善惡業種无不発現或起惡念或起邪見

03 或生繫恋或発猖狂惠相非一皆名顛倒因前誦仏

04 罪滅障除淨業内熏慈光外撰脱苦得樂一刹那間

05 下文勸生其利在此上聞持記（卷下、『中統藏』卷二二・五三三頁中）云正念中初通示善惡

06 古徳云過現積集善惡業縁每至臨終咸來責報臨終

〈五四丁左〉

01 惡念增盛則衆惡皆牽生惡道臨終善念增盛則衆善

02 皆成牽生善道故云无不發現或下別示惡相一无善種故

03 起惡念二无正信故起邪見三恩愛深重故生繫恋四苦惱

04 逼迫故發猖狂惡下二句總結顛倒不顛倒因下正釈経文

05 心不顛倒誦仏修因也罪滅障滅惡也淨業内熏生善也

06 上並自力慈下三句即假他力求生淨土雖云他力必由自

〈五五丁右〉

01 力方能感他父子相遇啐啄同時切莫專倚他力而失自行勉

02 之勉之上経舍利弗我見是利故等已下勸往生我見是利

03 見是殊常勝利益故勸生彼国又言若有衆生聞是

04 說者应当發願生彼国土者是上所言舍利弗衆生

05 聞者应当發願生彼国是也応知

06 從下接至于供養 述曰極樂无為涅槃界者寿

〈五五丁左〉

01 経 (卷上、『大正蔵』卷) 云彼仏国土清淨安穩微妙快樂次於无為泥洹之道上

02 準知隨縁雜善恐難生者是上所簡之少善根也不發菩

03 提心諸善故云隨縁雜善故成実論邪行品一百一 (卷七、『大正蔵』卷) 云仏

04 說三邪行云翻正行可知又正行品 (卷三、『成実論』卷七、『大正蔵』卷) 云邪正雜行云又 (卷三、『成実論』卷八、『大正蔵』卷) 云從愚

05 痴起輕微業以雜業故云云又『成実論』卷八、『大正藏』卷三二・三〇二頁上云雜善業故生人中此業

〆五六丁右

01 差品不同如經十說殺生則短命又云天報業者是施戒

02 善上淨故生天上又云文亦隨雜業故有差別云準知言

03 故使已下讚執持名号若一日等文意言臨終已下讚其

04 人臨命終等經言坐時即得生无生忍者是約処不退

05 无生今十信忍也言証得不退入三賢者是上品上生忍

06 故言衆等已下如上

〆五六丁左

01 從高樓至于供養 述曰弥陀侍者二菩薩号曰无

02 辺觀世音等者觀經『大正藏』卷一 二・三四頁下云觀世音菩薩及大勢至於一切

03 処身同衆生但觀首相知是觀世音知是大勢至此二

04 菩薩助阿弥陀仏普化一切云云今讚述此經意言憍憍

05 難悟罪根深已下出機失言人天少善尚難弃何況无

06 為証六通者今文以少善根积人天善全非云出世善

〆五七丁右

01 況积可知言雖得見聞等者明雖見聞出世法不行无

02 益言縱使連年放脚走越得貪瞋滿内胸等者是述雜

03 毒之善失疏四〔散善義〕、『大正藏』卷三七・二七頁上云縱使苦勵身心日夜十二時急走急作

04 如炙頭燃者衆名雜毒之善欲廻此雜毒之行求生彼

05 仏浄土者此必不可也言貪瞋即是身三業者依貪瞋作

06 身口意三業不善之義雖拳身可兼口業故云貪瞋

〈五七丁左〉

01 即是身三業言何開浄土裏真空者是指法性身

02 云浄土裏真空言寄語同生善知識等者勸化正

03 行言衆等已下如

卷下

【本文】

〈一丁右（殘簡①右）〉

01 法事讚下管見鈔下 沙門導空述

02 從舍利至于念經 述曰經舍利如我今

03 者讚嘆阿弥陀仏不可思議功德者文中初

04 尽六方正列若依新訳則列十方今諸但拳

05 六方四維自撰但言略耳言如我今者自捨

06 也彼仏功德不可以心略言議故云不可思

07 議功德經東方亦有阿閼鞞仏須弥相仏大

〈一丁左（殘簡①左）〉

01 大須弥仏須弥光仏妙音仏慈恩（『通贊疏』卷下、『大正藏』卷三七・三四四頁上）云第二引

02 他仏証稱讚浄土經二十方諸仏此略弁六

03 方便為六段亦弁東方每一方各有五段一

04 指国土二弁仏名多少四明証相五引証東

05 方者指国土亦有阿闍下弁仏名先引東方

06 西域以為上所以先弁阿闍梵語此云无動

07 不被煩惱四魔違順等動故須弥相者謂金

（以下欠失）

【註】

（1）『法水分流記』によれば法然門下に「導空」あり。二は同書に證空の系統に「道空」あり……三は覺明房長西の法孫性仙字道空である（『金沢文庫所藏浄土宗学上の未伝稀觀の鎌倉古鈔本』五五五頁、一九三三年）と、①法然直弟説、②西山門流説、③九品寺門流説を挙げ、当時の鎌倉や称名寺の教学の情勢から③と推定するに至っている。詳しくは塚本博士前掲稿五五四―五五六頁を参照されたい。

（2）当該箇所は、底本として使用される一六七八年書写本では「阿弥陀」とあるが、諸本・諸史料により「阿弥陀」と校訂した。

（3）【引文凡例】①旧字は新字に、異体字は通行体に、それぞれ改めた。②系図の点線は、発表者により省略していることを示す。③原文には、筆者の訓みにしたがって訓点および句読点を付した。

（4）『称名寺聖教目録』（一・一〇四頁）では上巻…五四丁・下巻…六丁とあるが、マイクロフィルムでは上巻…五七丁・下巻…五丁に整理されていて一定ではない。原本の確認を要するが、現状はマイクロフィルムの紙数が正しいと見るほかない。そして今回、上巻で一部本文がならず、脱丁のあることが判明した。これに関して、下巻として残存する断簡五紙のうち四紙が、現状の

二丁へ繋がるのが確認できた。これにより、現存部は上巻・六二丁・下巻・一丁ということになる。しかしながら、それでもなお一丁目から断簡へは文脈が繋がらないため、さらに脱丁のあることが推察できる。なお、脱丁は恐らく一丁程度と考えられる。

(5) 佐竹真城・赤松信映・西村慶哉・井上慶淳（共同研究）称名寺聖教『法事讚光明抄』について（三）―「少善根」「随縁雜善」理解に対する一考察と巻三翻刻―（『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』二二号、二〇二二年）において、井上氏が導空の理解を含めた九品寺流諸師の理解を比較考察しているので参照されたい。

(6) 日置孝彦氏は「称名寺と宋代浄土教 性仙の『観経疏管見鈔』を中心として」（『金沢文庫研究』二四―一／二、一九七八年）において、以下の如く指摘している。

これ（宋代浄土教典籍引用回数一覧表 ※筆者註）によってわかることは、元照二六文、延寿一〇文、戒度九文、扱瑛四文、源清三文、用欽二文の順で、このうち、元照の引文が最も多い。上記の如く、性仙は宋代浄土教を受容するうち、元照の引文が全体の約半数を占めているので、元照の引用が多い『観無量寿仏経義疏』の二・三についてつぎに見てみたいと思う。

一、『観経玄義分管見鈔第一』の文中の「疏今此至于為体 述曰今此観経即以観仏三昧為宗亦以念仏三昧為宗也」については元照が『観無量寿仏経義疏』において宗旨を述べた箇処の「天台云。此経以心観為宗。此則單就能観為言也。観仏依正得非心観乎。遠師善導並云。諸経所弁宗趣各異。此経以観仏三昧為宗。此則通就能所而立也。観雖十六依正不同而主在観仏。即下経云。於見身中得念仏三昧。念即是観（大正蔵三七、二八〇・中）を引用している。つぎに戒度の『観経疏正観記』を引く。すなわち、戒度が元照の『観無量寿仏経義疏』の同じところを注釈した箇処の「念即是観会同宗名」（浄全五、四四五下）を引用している。

二、性仙は浄土往生者が修行する際の注意事項を述べた『観経疏散善義』について詳しい注釈をしている。その中で『観経散善義管見鈔第一』の文中の「疏曰二者深心至于大益也述曰二者深心言深心者即是深信之心也」については元照の著した『観無量寿仏経義疏』の「二深心者於大乘法聞思修習至仏不已也釈論云智度大海唯仏窮底故云深也」（大正蔵三七、二九九・下）を引用する。つぎに戒度の著した『観経疏正観記』の「深心者做法根源浄」（浄全五、五〇一上）を引き、さらに用欽の『観経疏白蓮記』を引用している。

三、『観経散善義管見鈔第二』には元照の『観無量寿仏経義疏』（巻下）が十二文引用されている。元照の引文は、九品を説明する中において、中品上生五文、中品中生二文、下品中生四文、下品下生二文の計十二文が引用されている。

以上性仙の『觀經疏管見鈔』における宋代浄土教の受容について考察してきたが、別記の一覽表に見られる如く、元照の浄土教をはじめとして当時の宋代浄土教を積極的に受容していることがわかる。また称名寺においても宋代浄土教が盛んに研鑽されていたものと思われる。

(二七頁 ※傍線は筆者加筆)

- (7) 『阿弥陀經』註釈書に限れば、其の他に僧肇『阿弥陀經疏』七回、玄一『阿弥陀經疏』三回、慈恩『阿弥陀經通贊疏』六回、慈恩『阿弥陀經疏』一回、戒度『阿弥陀經義疏聞持記』二回、智円『阿弥陀經疏』一回、天台『阿弥陀經義記』二回、円測『阿弥陀經疏』二回、元暉『阿弥陀經疏』二回、源信『阿弥陀經略記』一回が挙げられる。
- (8) 『真宗研究』六七所収予定の論放。
- (9) 遺憾ながら新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、原本調査がかなわなかったため、『称名寺聖教目録』(一・二〇四頁)に依拠した。
- (10) 拙稿「長西の「諸行本願義」考―浄土疑芥」を通しての再検討」(『宗学院論集』八八、二〇一六年)
- (11) 以下、一丁程度脱丁か。
- (12) 沙 左傍に「石偏」あり。以下、「沙」は全て同様。